

生活行為向上マネジメント(MTDLP)からの報告

- ① 生活行為向上リハビリテーション加算の算定要件
(資料は後日配布)

- ② 介護予防・日常生活支援総合事業とMTDLP

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト

担当理事 土井勝幸

生活行為向上リハビリテーションの算定要件について

当日説明させて頂く資料を後日あらためて配信いたします。

介護予防・日常生活支援総合事業とMTDLP

「介護予防市町村支援事業実施に関する研修会」 H26.8.9

※全ての都道府県のPOS士会長を急遽招集しての説明会

介護予防は・・・(中略)・・・リハビリテーションの理念を踏まえて、「**心身機能**」「**活動**」「**参加**」・・・(中略)・・・に**働きかけ**・・・(中略)・・・**運動機能や栄養状態**・・・(中略)・・・**ではなく**、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促し、それによって**一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組を支援して、QOLの向上を目指す**ものです。

これまでの介護予防の手法は・・・(中略)・・・**機能回復訓練に偏りがち**・・・(中略)・・・**活動や社会参加を促す取組(多様な通いの場の創出など)**が必ずしも十分ではなかった・・・(中略)・・・

これからの介護予防は、・・・(中略)・・・**生活環境の調整や、地域の中に生きがい・役割を持って生活できるような居場所と出番づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチ**・・・(中略)・・・**リハビリテーション専門職等を活かした自立支援**に資する取組を推進し・・・(中略)

講演テーマ：これからの介護予防～リハビリテーション専門職等への期待～

厚生労働省老健局老人保健課 課長補佐 鶴田真也氏 の講演レジュメより抜粋

事例
(生駒市)

84歳 男性 高齢世帯(夫) 要支援1 (2012/6/1~2013/5/31) ⇒ 更新せず
 83歳 女性 (妻) 要介護1 (2012/6/1~2013/5/31) ⇒ 要介護1

要介護認定を受けた経緯： 夫は、脊柱管狭窄症で歩行や風呂の出入りがしづらくなった。
 妻は、物忘れが目立ち、生活管理全般が一人では難しくなった。



夫婦で通所(パワーアップ教室)へ



夫が上手に見守りながら妻が料理



夫は畑仕事を再開、妻は通所で記録係のボランティア

	【開始時点】(2012.10)	【3か月後】(2013.1)	【6か月後】(2013.7)
ADL IADL	(夫)腰痛で姿勢の向きを換えたり荷物を運ぶことが難しい 畑仕事を中断 (妻)金銭・服薬・物品管理が難しい 家事全般に夫の助けを借りている	(夫)姿勢の向きを楽に換えられるようになった 買物の荷物を持って歩くことができる (妻)手順を踏む行為(料理等)が難しくなっている	(夫)畑仕事を再開(クワの使用が可能になる) (妻)夫の助けを借りながら、家事を行っている。
地域 ケア 会議 による 検討	(夫)妻を一人にして出かけるのが心配 ストレスと夜間不眠あり (妻)困惑感、イライラ感が募る ↓ ①二人で通所事業へ (週2回) 互いに交流の幅を広げる ②地域包括支援センターの訪問	(夫)通所終了 畑仕事の再開準備(通所の仲間の応援で土を耕し、ウネを作る) (妻)通所継続 お茶を配る、記録をつける等の役割を増やす ①リハ職訪問(生活場面でのアドバイス)	妻のケアマネジメント、リハ職の対応を継続 夫は、日常生活が困らなくなり、自ら要介護認定を更新しなかった。 【現在】(2013.10)
リハ職 の対応	(夫)腰痛を回避する動作、筋力アップの方法をアドバイス (妻)通所でお茶を配るなどの役割をつくり自信回復。夫へ関わり方をアドバイス	(夫)畑仕事に必要な動作、筋力アップの方法をアドバイス (妻)自宅台所で、実際に料理をしながら夫に上手な指示の仕方をアドバイス	(夫)妻の様子を客観的に見られるようになり、不安が緩和。 (妻)パワーアップ教室でボランティアとして参加。笑顔が増える。 夫婦ともに、通所での仲間づくりを通じて、気持ち明るくなり、活動的になっている。

事例
(生駒市)

84歳 男性 高齢世帯(夫) 要支援1(2012/6/1~2013/5/31) ⇒ 更新せず
 83歳 女性 (妻) 要介護1(2012/6/1~2013/5/31) ⇒ 要介護1

要介護認定を受けた経緯： 夫は、脊柱管狭窄症で歩行や風呂の出入りがしづらくなった。
 妻は、物忘れが目立ち、生活管理全般が一人では難しくなった。

実は・・・この取組みこそ

「心身機能・活動・参加」に向けた適切な支援！

=

生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念！

地域ケア会議・日常生活支援総合事業
 においてOTの視点が求められている。

地域
ケア
会議
による
検討

(夫)妻の介護による
ストレス
(妻)困惑感、イライラ

- ①二人で通所事業へ(週2回)
互いに交流の幅を広げる
- ②地域包括支援センターの訪問

- 増やす
- ①リハ職訪問(生活場面でのアドバイス)

リハ職
の対応

(夫)腰痛を回避する動作、筋力アップの方法をアドバイス
 (妻)通所でお茶を配るなどの役割をつくり自信回復。夫へ関わり方をアドバイス

(夫)畑仕事に必要な動作、筋力アップの方法をアドバイス
 (妻)自宅台所で、実際に料理をしながら夫に上手な指示の仕方をアドバイス

(夫)妻の様子を客観的に見られるようになり、不安が緩和。
 (妻)パワーアップ教室でボランティアとして参加。笑顔が増える。
 夫婦ともに、通所での仲間づくりを通じて、気持ちが明るくなり、活動的になっている。